滝高フロンティアサイエンス通信

第　7　号

2013, 4, 30　　SSH 理数科

２学年　理数科校外研修　宮島沼巡検　リポート

昨年に引き続き、２学年理数科３９名は、美唄市にある、「宮島沼」へ、校外研修に行ってきました。

美唄市にある宮島沼ですが、岩見沢、月形との町境に位置します。2002 年 11 月 18 日、1201 番目のラムサール条約登録湿地です

湿地という環境が渡り鳥にとって重要な環境であること。保全だけでなく持続可能な賢明な利用（ﾘｲｽﾞｭｰｽ）を考えていくことが大切。

宮島沼水鳥・湿地ｾﾝﾀｰ　牛山克巳さん

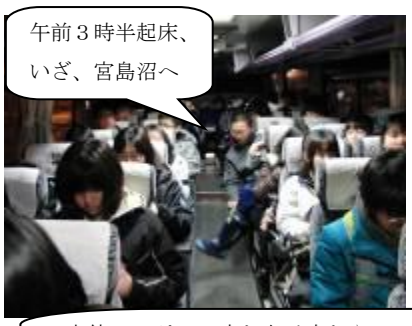
双眼鏡の使い方レクチャー。マガンねぐら入りの観察、生憎の雨、風…やや見通しが甘く装備不十分でした。体力気力が奪われました。

天候状況によりねぐら入り時間も変動。午後５時前にすでにねぐら入りするマガンも観察されました。次から次へとマガンの群れが沼に戻ってきます。「鍵になり竿になり」とＶ字編隊で戻ってきます。ﾊｸﾁｮｳもいます。多いのはｺﾊｸﾁｮｳ、写真は少数派のオオハクチョウ

滝高フロンティアサイエンス通信

冷えた体は温泉で温めました。本日の宿「月形温泉ホテル」朝のねぐら立ち観察に備えます！！

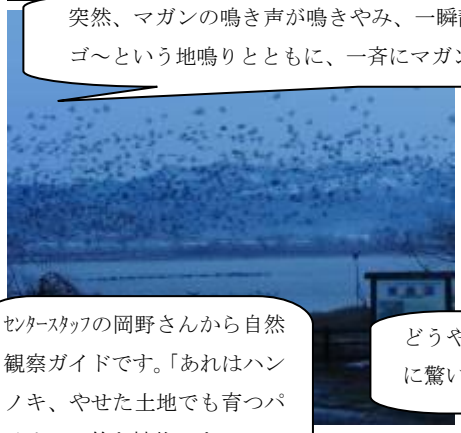
午前３時半起床、いざ、宮島沼へ

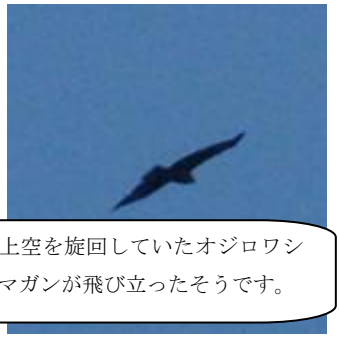


午前４時、静かに観察場所へ！

視界良好、期待が高まります

突然、マガンの鳴き声が鳴きやみ、一瞬静まります。次の瞬間、ゴゴゴゴゴ～という地鳴りとともに、一斉にマガンが飛び立ちました。（4:20 頃）



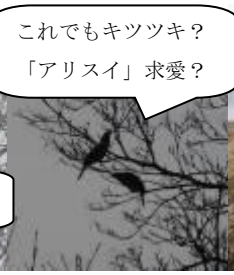


ｾﾝﾀｰｽﾀｯﾌの岡野さんから自然観察ガイドです。「あれはハンノキ、やせた土地でも育つパイオニア的な植物です」

どうやら上空を旋回していたオジロワシに驚いたマガンが飛び立ったそうです。

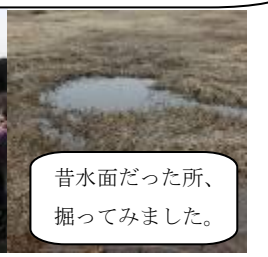
4:45 頃　今度こそ本当のねぐら立ちです。迫力満点、大満足のねぐら立ち観察でした

これでもキツツキ？「アリスイ」求愛？



ニュウナイスズメ

後退する水面、進む浅底化と水質汚濁



昔水面だった所、掘ってみました。

宮島沼の現状と課題　牛山さんからフィールド講義

浚渫実験区、底泥除去で水質悪化を防げるか

除去底泥は栄養に豊富、肥料として利用できないか？

採食場としてのたんぼの重要性。生産性を求める農業との課題。小麦緑肥型代替採食地のとりくみ、ふゆみずたんぼの取り組み

生徒の声（一部）～マガンの寄留地が減少するなか飛来数が増え、集中的にマガンが増えている、これを分散させていく対策としてどのようなことが必要だろうか？／ねぐら立ちのとき最初にと飛び立つマガンは何を基準にとびたっているのだろうか気になった。／ねぐら立ちもの凄い迫力でした。早朝の寒い中見る価値のあるものだと思いました。／今度はぜひ家族と来たいです／宮島沼について詳しく教えて頂きありがとうございました。現状と課題、自分たちになにができるのか考える機会となりました。／